

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆書	隷書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
効	コウ きく いたす ならう								画因説文
效									王勃詩序
									九成宮 九經・女部
勅	チョク いましめる みことり								瑞玉集
敕									
勅									
勃	ボツ にわかに おこる にわかに								王勃詩序
									度人経
勇	ユウ いさむ いさましい								瑞玉集
勇									帛比干墓文
勗									梅大眼造像
勉	ベン つとめる								鄭書指歸
勉									敬史君碑
勘	カン かんがえる								最澄 越州録

【効】本来は「力」ではなく、「支」に従う字だったようだ。「支」は「攴」に変化する。南北朝期には「効」が現れる。干祿字書では「効」と「效」は別字扱い。九經字様では「效」が親字で「効」は訛、つまり異体字。九經字様の旁は「支」ではなく「攴」。欧陽詢は皇甫誕碑で「効」を九成宮體泉銘

で「效」を書いている。康熙字典には「効」と「效」の両方があるが、「效」の旁は「支」ではなく「攴」。現代中国では「效」。

【勅】説文には「敕」と「勅」があるが、「敕」は「誡也」、勅は「勞也」と別字として掲載されている。五經文字は親

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
												効
												敕
												勅
												勃
												勇
												勗
												勉
												勘

字に「敕」を掲載し、「勅字今相承皆作勅唯整字從此敕」とする。現代中国では「敕」を用いる。

【勉／勉】中国では昔も今も正字も慣用字体もすべて「勉」。康熙字典にも「勉」はあるが「勉」はない。「勉」が現れるのは日本の江戸期。漱石も江戸期と同じ「勉」を書く。当用漢

字表は「勉」で、当用漢字字体表で「勉」に変更。当用漢字字体表の発表時、岩田母型製造所には「勉」の字体の母型はなかった。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆書	隷書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
動	ドウ うごかう つとめる つとめる つとめる								王勃詩序
務	ム つとめる つとめる								聖武天皇雜集
勤	キン ゴン つとめる つとめる								聖武天皇雜集
勤	人③								聖武天皇雜集
勝	ショウ かつ まさる たえる								王勃詩序
勝									王勃詩序
募	ボ つもの								光明皇后社 家立成
勸	カン すすめる								聖武天皇雜集
勸									性靈集

平安中期 から 室町	江戸版本 1716年 部首・画数	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
動												動 現代中国
務												務 現代中国
勤												勤 現代中国
勝												勝 現代中国
募												募 現代中国
勸												勸 現代中国

【務】「力」を下部中央に書く移構の文字が日本にはある。「支」は「攴」に変化するが「攴」に誤ることがある。弘道軒が「攴」に誤った字体。現代中国も「攴」の字体。

【勝】大徐では「力部」、五経文字では「舟部」に収録。干禄字書で偏の「月」の中が横線のものを五経文字で点に訂正し、

「ふなづき」として「舟」部に載せている。康熙字典も文部省活字も同様に点。当用漢字表も点であった。

【募】康熙字典ではこの字のくさかんむりを4画に数える。

